

令和4年度 成果検証結果及び改善方針(案)

令和5年7月5日

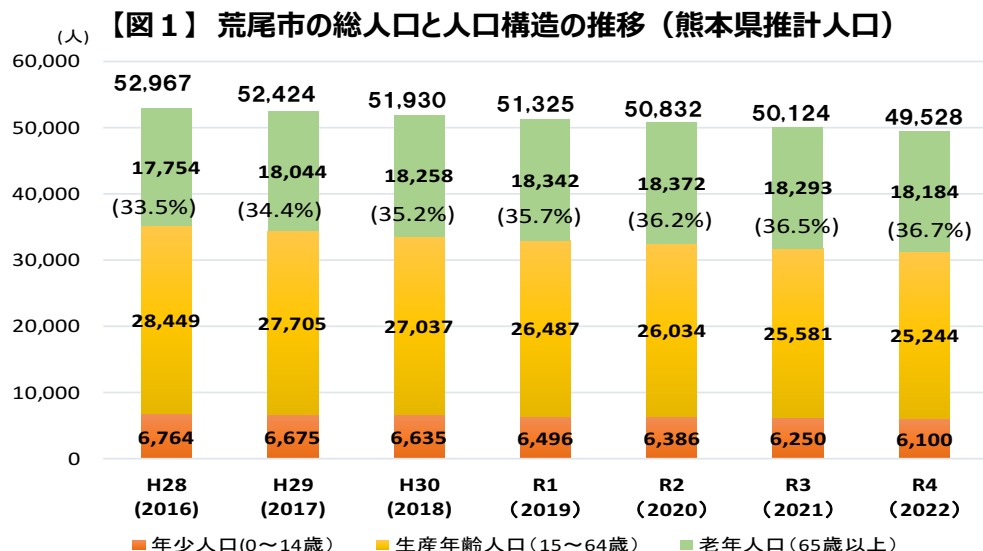
令和5年度 荒尾市総合計画審議会

もくじ

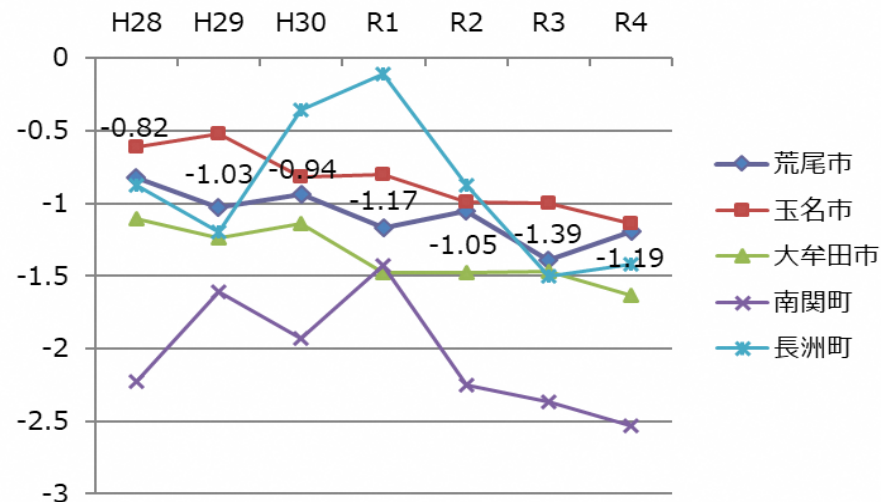
1. 人口ビジョンの進捗状況 … 1
2. 重点戦略「あらお未来プロジェクト」の進捗状況 … 2
3. 数値目標・重要業績評価指標の達成状況一覧 … 15

1. 近年の本市の人口の状況

- 本市の人口は、第1期あらお創生総合戦略を策定したH27以降においても減少傾向が継続しており、R4.10.1現在で49,528人と、計画終期(R7)の目標人口51,000人を大きく下回っている【図1】。また、人口増減率は、近隣市町と比較して減少幅が小さい状況である。【図2】。
- 合計特殊出生率は、R7に2.0という目標に対し、R2は1.51と減少傾向にある。出生数については、H30は436人だったのに対し、4年間で約150人減少し、R4は280人となっている。人口移動については、社会減（転入－転出）は、近隣自治体及び国外からの転入増により▲55人と回復してきている。一方で、自然減（出生数－死亡数）は、出生数の減少も影響し大きくなっている。【図3】。



【図2】 人口増減率の推移(熊本県推計人口、福岡県人口移動調査)



【図3】 荒尾市の自然動態・社会動態の推移（熊本県推計人口）

	H28 (H27.10.1～ H28.9.30)	H29 (H28.10.1～ H29.9.30)	H30 (H29.10.1～ H30.9.30)	R1 (H30.10.1～ R1.9.30)	R2 (R1.10.1～ R2.9.30)	R3 (R2.10.1～ R3.9.30)	R4 (R3.10.1～ R4.9.30)
推計人口	52,967人	52,424人	51,930人	51,325人	50,832人	50,124人	49,528人
純増減	▲440人	▲543人	▲494人	▲605人	▲533人	▲708人	▲596人
自然動態	▲291人	▲304人	▲307人	▲394人	▲383人	▲438人	▲541人
(出生数)	428人	412人	436人	346人	347人	328人	280人
(死亡数)	719人	716人	743人	740人	730人	766人	821人
出生率	1.79	1.87	1.79	1.62	1.58	1.51	未公表
社会動態	▲149人	▲239人	▲187人	▲211人	▲150人	▲270人	▲55人
(転入者数)	1,728人	1,676人	1,748人	1,757人	1,627人	1,392人	1,635人
(転出者数)	1,877人	1,915人	1,935人	1,968人	1,777人	1,662人	1,690人

1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる

【数値目標の達成状況】		指標名	年度別	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
合計特殊出生率	目標値	—		—	1.95	1.96	1.97	1.98	1.99	2.00
	実績値	1.87		1.87	1.79	1.62	1.58	1.51		
	達成率	—		—	91.8%	82.7%	80.2%	76.3%		
指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
荒尾市で子育てをしたいと思う市民の割合 (%)	目標値	—	66.0	66.8	67.6	68.4	69.2	70.0		
	実績値	65.3	70.8	69.3	68.1					
	達成率	—	107.3%	103.7%	100.7%					

【数値目標の考察】

合計特殊出生率

目標では、R3は1.98としていたが実績では1.51と、H29をピークに減少が続き、目標から大きく遠ざかってきている。出生数も直近のピークのH30の436人から100人以上減少している。本市の人口構造を見てみると、R2年時点で20代の人口が男女ともに少なく、この年代の出生数の減少が、出生数全体の減少に影響しているのではないかと考える。

出生数の減少に歯止めをかけるため、若年女性に選ばれるまちづくりを行っていく必要がある。荒尾で暮らしたいと思ってもらうにはどうしたらいいのか、市民のニーズ調査等を行い、若年女性にとって魅力的なまちづくりを行いつつ、子育て世帯に必要な経済的支援や仕事と家庭の両立支援などに係る事業案を検討していく。

荒尾市で子育てをしたいと思う市民の割合

R3に引き続き、目標は達成できている。R4まちづくりアンケートの結果から、荒尾市で子育てをしたくない理由としては、「子どもの教育環境が充分でないから」が最も高く、次いで「子育て支援サービスが充分でないから」となっている。本市では、小中学校の児童生徒全てにタブレット端末の配付や小学校の給食費無償化など、独自の取組を行っており、市立図書館も移転整備するなど、教育環境も整えてきている。今後は、どのようなところが不十分なのか深掘りしていく必要があり、ニーズに合った取組を行っていくことが求められる。

1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

1 若い世代の結婚希望の実現

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
結婚サポートセンター会員数	累計2,722人	累計2,924人	107%
結婚サポートセンター会員間成婚者数	累計79組	累計101組	128%

会員数、会員間成婚者数ともに、目標は達成することができた。新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、対面型の婚活イベントが再開されたことや、TVCMの放映により結婚サポートセンター「KOIBANA」の認知度が上がったことが成果につながったと考えられる。

2 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
母子保健事業に満足している人の割合	58.5%	66.9%	114%

目標を達成することができたのは、妊娠期から出産期において、切れ目なく支援を行うことで、産後の早期介入を可能とし、助産師による産後ケア事業や保健師の継続的な支援ができたことによるものだと考える。

また、一般不妊治療費の助成や新生児聴覚検査費用への助成などの経済的負担軽減や、妊産婦の支援に加え父親の育児協力を促すプレパクラスにおいて、参加者から高い満足度を得ていることなども、目標達成に寄与していると思われる。

引き続き、それぞれの事業について周知を図り、個々のニーズに合わせた支援を実施していく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
子育て世代包括支援センターの認知度	40%	29.8%	75%

子育て世代包括支援センターの認知度は、例年30%程度に留まり、R4も目標を達成することができなかった。R2より事業を開始しており、実績がまだ少ないことが要因だと思われる。

各事業について周知を図り、個別に合わせた支援を実施していくとともに、妊娠届出時から始まる関わりの中で把握した特定妊婦、要支援妊婦、出産後の要支援児童等について、子育て世代包括支援センター及び子ども家庭総合支援拠点が連携し、適切な時期に必要な支援を実施できるよう情報共有を密に行いながら取り組んでいく。

1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

3 子育てしやすい環境づくり

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
希望の子ども数を持っていない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を挙げる人の割合	29%	26.7%	108%

小学校給食費の無償化や中学生までの医療費無償化等を行ったことで目標は達成することができたものの、引き続き、経済的な支援を行っていく必要がある。

最も経済的負担に感じる年代は、大学・専門学生、次いで高校生となっており、国においては、児童手当の高校生までの引き上げや大学生への給付型奨学金などが検討されている。

なお、経済的支援の1つとして、R5.10月診療分から、18歳までの医療費の無償化を実施する予定である。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
待機児童数	0人	0人	100%
学童保育の待機児童数	0人	41人	—

新たに市内保育所等に勤務し、市内の賃貸住宅に居住する保育士の家賃補助を行い、保育士の確保に努めたことで、保育所・認定こども園等の待機児童数は、R3に引き続き、0人と目標を達成できた。今後も、保育の受け皿の確保に努めていく。

学童保育の待機児童数については、小学校児童数が横ばいの中、R3から申込数が70名増加したことが影響し、目標を達成することができなかった。仕事と子育ての両立を進める上で待機児童の解消は喫緊の課題であるため、関係機関と更なる連携を図りながら待機児童解消に向けた取組を行っていく。

4 魅力ある教育環境の実現

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
全国学力学習状況調査（小学校）	全国平均以上	全国平均以下 国134.9市127	—
全国学力学習状況調査（中学校）	全国平均以上	全国平均以下 国121.8市104	—

小学校・中学校ともに目標を達成することができなかった。授業改善アドバイザー事業や、県の学力重点支援地域事業に取り組んだものの、学力調査の正答率に十分に反映できていない状況である。要因としては、学力の定着につながる家庭学習の不十分さがある。授業へ取り組む姿勢は十分身につけているので、今後は家庭学習と連結する授業づくりに取り組んでいきたい。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合（小学校）	全国平均以上	全国平均以下 国79.3市77.8	—
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合（中学校）	全国平均以上	全国平均以下 国78.5市72.4	—

小学校・中学校ともに目標を達成することができなかった。各学校で自己肯定感・自己有用感を高めるために、全員活躍の授業、子どもが主体となる活動、道徳教育の充実に取り組んだものの、新型コロナウイルスの影響もあり、体験活動の充実が図れなかったことなどにより、効果が出なかったと考えられる。今後は、一人一人の個を認め、褒め、励まし、伸ばす教育を中心に達成感を味わえるような取組の充実を図っていきたい。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
学校運営協議会における学校の教育環境の整備・充実についての評価点数	3点以上／4点	3.77点	100%

目標を達成することができたのは、R4に市内全校がコミュニティスクールとなり、各学校における学校運営委員会の活動が充実してきたからだと考えられる。

2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる

【数値目標の達成状況】

指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
何らかの地域活動に参加している市民の割合 (%)	目標値	—	47.6	53.1	58.5	64.0	69.5	75.0
	実績値	42.1	43.3	43.1	43.9			
	達成率	—	91%	81%	75%			
指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
平均自立期間（日常生活動作が自立している期間の平均） （男性/年）	目標値	—	79.0	79.1	79.2	79.3	79.4	79.5
	実績値	78.9	79.2	79.4	79.1			
	達成率	—	100.3%	100.4%	99.9%			
指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
平均自立期間（日常生活動作が自立している期間の平均） （女性/年）	目標値	—	83.9	84.0	84.1	84.2	84.3	84.4
	実績値	83.8	83.6	83.8	84.3			
	達成率	—	99.6%	99.8%	100.2%			

【数値目標の考察】

何らかの地域活動に参加している市民の割合

R3に引き続き、目標値を下回っている状況である。R2～R4においては、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止・延期した事業も多く、市民の活動自粛も大きく影響している。R5は、認知症サポーターのステップアップ講座や成年後見制度の利用促進のための出前講座等の活動は再開する予定である。

ハード面では、介護予防拠点整備事業により公民館等を整備し、地区住民による生活支援が広まりつつある。

平均自立期間(日常生活動作が自立している期間の平均)

後期高齢者健診受診者に対し、健診結果に応じた重症化予防事業を実施したことや、生活習慣病に対する啓発活動などを図ったことにより、女性は目標を上回ることができたが、男性はわずかに下回った。今後も保健事業の効果的な推進を図り、市民の自立度の更なる向上を目指す。

2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

1 健康長寿社会の実現

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
毎年健康診断や人間ドックを受けている人の割合	72%	68.1%	94%

新型コロナウイルスの影響で受診控えがあるためか、コロナ禍前の受診者より少ない状況であり、目標達成とはならなかった。しかし、市で実施したがん検診の受診率については、未受診者に受診勧奨のハガキを送付したことにより、R3と比較して肺がん及び大腸がん検診の2項目で向上した。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
栄養のバランスを考えて食べる人の割合	55.6%	32.1%	58%

食生活改善推進員と連携し、世代に応じた食育事業を実施したが、目標を達成することができなかった。子育て世代には時短レシピ集の配布、高校生には食育講座を実施したものの、新型コロナウイルス感染症対策のため、食事作りの具体的な実践面の支援ができなかったことが要因の1つと考えられる。

今後は新たに食生活改善推進員による子育て世代や男性を対象に、栄養バランスを考えた食事づくり等をテーマとした料理教室を開催し、食事作りの実践面の支援に重点をおいた事業を実施していく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
保健・医療体制に対する満足度	69.5%	72.9%	104%

救急医療対策として、夜間・休日等の救急医療体制を確保することができたこと、在宅当番医・平日夜間救急輪番医事業により、市民がいつでも安心して医療を受けられる体制を取れたことが、目標達成につながったと考えられる。

2 地域共生社会の実現

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
地域住民互助による買物支援・見守り支援等の日常生活支援サービスの行政区単位における実施率	52.5%	77.6%	148%

地区公民館の介護予防拠点整備等による介護予防活動の充実が成果につながり、目標を達成することができた。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
障がいへの理解や関心があると回答した市民の割合	48%	21.8%	45%

目標を達成することはできなかったものの、「どちらかといえば理解や関心がある」と答えた割合まで含めると、87%となっている。障がい者へ障がい福祉サービスを提供することにより、住み慣れた地域での生活の継続や社会参画促進への後押しを行い、障がいに関する周知啓発においても、広報掲載やイベント時に障がいに関する理解促進コーナーを設置し、多くの小中学生やその家族が発達障がいの体験に参加されたことが、理解促進に寄与したと考える。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
友人、同僚、その他社会団体の方などとの交流がないと回答した市民の割合	14.0%	8.4%	166%

社会福祉協議会に委託したアウトリーチを含む早期支援などの支援を行ったこと、生活相談支援センターを開設し、生活・経済面などの様々な不安を持つ人や家族等からの相談に対し、適切な支援を行ったことなどが、目標達成につながったと考えられる。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
普段から性別や障がいの有無などに関わらず相手を尊重し接していると回答した市民の割合	100%	95.2%	95%

目標は達成できなかったものの、部落問題や女性の人権問題等の様々な人権問題の解消に向けての人権啓発に取り組んだことにより、少しずつ実績値は上がってきている。今後も、相談体制や人権教育の推進・普及啓発活動を充実させていく。

2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

3 生涯学習の推進

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
市立図書館・中央公民館来館者数	89,342人 ※R5以降、図書館と公民館に分ける	図書館 284,244人 公民館 28,124人	350%

市立図書館は、商業施設移転に伴う設備の充実や開館時間・日数の増加による利便性の向上により来館者数が増加した。また、有名作家の講演会やスタンプラリー等のイベントも充実させたことで、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の利用につながったと考えられる。

中央公民館は、R4から指定管理となった事業者による新たな講座やイベントを行ったことで、R3より来館者は増加したが、R1以前までには回復できておらず、R5来館者の満足度を向上させるための更なる事業展開を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
運動習慣がある人の割合	男性57% 女性45%	男性57% 女性42%	男性100% 女性93%

男性は目標を達成することができたが、女性は達成できなかった。運動習慣がない人については、男女とも30代および40代の割合が高く、各種大会でも子育て世代の参加が少ないことから、R5もファミリースポーツを中心とした事業に取り組む。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
学習支援ボランティア延べ人数	26,956人	23,114人	86%

学校と地域の連携強化のために意見交換会などを実施したが、新型コロナウイルスの影響により、地域人材の学習支援活動への参加控えなどもあり、目標達成とならなかった。

3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる

【数値目標の達成状況】

指標名	年度別	H28	R2	R3	R4	R5	R6	R7
市内の従業者数 (人)	目標値	—	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	実績値	15,011	—	14,748	—			
	達成率	—	—	98%	—			
指標名	年度別	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
一人当たりの 市町村民所得 (千円)	目標値	—	2,199	2,211	2,222	2,234	2,245	2,257
	実績値	2,188	2,159	2,214	2,079			
	達成率	—	98%	100%	94%			

【数値目標の考察】

市内の従業者数

人口減少に伴い労働力人口が減少する中においても、当初の数値（15,000人）を維持することを目標としているが、R3経済センサスにおける、公務を除く市内の従業者数は14,748人で目標を下回っている。人口の減少に伴い、今後益々、労働力人口が減少していくことが予想されるが、工場を誘致できる用地を確保し、雇用の受け皿となる魅力ある企業を誘致するとともに、働き甲斐のある地元企業のイメージを広く伝え、雇用の促進に繋げていく必要がある。

一人当たりの市町村民所得

R2においては、新型コロナウイルスの影響から企業所得が大幅に減少した。これは本市だけでなく、県内45の全ての市町村がダウンしており、特に観光産業を主とした自治体や商業施設を多く抱える自治体の下げ幅が大きい。

人口減少に伴う労働力不足の中で、働き手の減少を上回る効果的な生産性の向上を図る必要がある。また、企業所得が伸びていくよう、引き続き企業誘致や創業支援、商業振興に力を入れて取り組んでいく。

3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

1 安定した雇用の創出と就職支援

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
新設・増設に伴う新規雇用者数	10人	5人	50%

目標は達成できなかったものの、市内企業において工場増設による立地協定1件を締結し、5名の新規雇用が見込まれている。また、あらお海陽スマートタウンにおいても入札を行い、10・11街区は(株)トライアルカンパニーが落札し、200～300名の新規雇用が見込まれている。引き続き、製造業やIT系企業を中心とした誘致に注力していく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
新規創業・事業承継件数	17件	19件	112%

商工会議所や起業家支援センター等との連携により、創業に関するセミナー等を対面とオンラインとのハイブリッド型で開催したことや、創業者の出店促進のための補助金等の支援により、目標を達成することができた。新型コロナウイルスの拡大期においては、飲食店の新規創業が少なかったが、R4は、19件中8件が飲食関係の新規創業となった。また、農業分野においては、2名が新たに就農を開始したところである。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
ハローワークにおける市民の就職決定率	34%	28.7%(R3)	84%

玉名・大牟田管内の高校生の卒業生のうち就職した人で、荒尾市内への就労者はわずか6%と、若者の流出が進んでいることもあり、目標達成とはならなかった。一方で、YouTubeを活用した企業紹介や奨学金返済わか者就労者支援事業等により、市内定住と地元雇用に繋がっている。今後、市内企業の人手不足と人材流出に歯止めをかける事業について制度設計を行う予定である。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
各事務事業を通じた就職・就業決定者数	51人	58人	114%

就労系障がい福祉サービスの利用者は年々増加傾向にあり、一般就労に向けた障がい者の訓練の場として大いに役立っていることや、ひとり親を対象とした職業訓練に関する給付を行い、資格取得に向けた支援を行ったことなどにより、目標を達成することができた。

2 生産性向上や地域経済循環による所得の向上

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
市内従業員一人当たりの市内総生産額	7,694千円	6,782千円(R2)	88%

工業では固定資産の課税免除、農業ではスマート技術を活用した梨の生産に係る温度管理システムや農業用ドローン等の導入支援、商業ではキャッシュレス決済アプリ「AraoPAY」を活用したプレミアム付商品券事業と、生産性向上や地域経済循環による所得の向上に寄与する取組を行ったものの、目標は達成できなかった。

今後、商工農業ICTや先端技術を普及させ、機械化・自動化を進め、人手不足が深刻化する中においても生産性が向上する仕組みを更に検討する必要がある。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
農水産業総産出額	26.5億円	27.6億円(R3)	104%

農業者に対して、農業の効率化や省力化等による生産力を向上させる目的で、農業用機械の購入・施設整備等や野菜・果樹の種苗購入などへの支援を行ったことで、目標を達成することができた。

重要業績評価指標（KPI）	最終年度（R7）目標	R4実績	達成率
地域経済循環率	75%	62.3%(H30)	—

最終年度であるR7に目標を75%と設定している。人流を生み出し地域経済の活性化を図ることを目的とした道の駅の整備については、PFI事業者の再公募を行い、品揃えの充実に向け、出荷意向調査を実施した。

また、地産地消について、農水産物では地産地消グルメフェアの開催や農業に関心のある大学生を対象に農業体験実習を行い、エネルギーでは、あらお海陽スマートタウンの土地の公募要件に、再エネ・省エネ設備の導入とエネルギーマネジメントへの協力を必須とした。このように地産地消を推進することで市内企業等の所得の増加を図りながら、地域経済循環による経済の活性化を図っていく。

4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる

【数値目標の達成状況】

指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
あらおファン の人数 (人)	目標値	—	1,400	1,700	2,000	2,400	2,700	3,000
	実績値	1,170	2,779	5,772	8,788			
	達成率	—	199%	340%	439%			
指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
本市への転入者数 (人)	目標値	—	1,800	1,840	1,880	1,920	1,960	2,000
	実績値	1,757	1,627	1,392	1,739			
	達成率	—	90%	76%	92%			

【数値目標の考察】

あらおファンの人数

ふるさと納税のリピーターの大幅な増加により、想定を超えて目標達成となった。リピーター数が増加した理由としては、果物の返礼品における一定数のリピーターが存在することによるものだと考える。あらおファンを増やすという目標は達成できているため、今後はファンの人との関わりや結びつきを深め、ファンの方に荒尾市をより深く知ってもらう取組み等を行っていく必要がある。

本市への転入者数

目標は達成できなかったものの、前年度と比較して大幅に増加した。これは近隣自治体及び国外からの転入増加によるものである。移住検討者が参加する相談会への出展参加や、荒尾市近郊で住まいを探す人に本市を選んでもらえるような魅力ある事業を検討していく必要がある。

4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

1 あらおファンの拡大

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
荒尾ふるさと会員の新規登録者数	200人	167人	84%

R3同様、新規会員登録者へのプレゼントキャンペーンを行ったが、目標達成とはならなかった。しかし、年間167人のうち134人はキャンペーン期間中の2ヶ月で登録を行っていることから、インセンティブを付与することは効果的だと考える。登録者を増やすだけでなく、その後の関係の深め方などについて考えていく必要がある。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
観光入込客数	208万人	1,677,606人	81%

新型コロナウイルスの影響により、R4も目標達成とはならなかったが、年々増加している。市内周遊については、スタンプラリーを実施したものの、グリーンランドへの観光客を市内で周遊させることができなかつたため、新たな方法を検討する必要がある。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
外国人観光入込客数	24,000人	1,131人	5%

オンラインツアーを実施したものの、新型コロナウイルスの影響により訪日自体が少なく、目標は達成することができなかつた。今後は、中国・台湾などのアジア圏の動向を注視し、県観光連盟等と協力しPRを行いつつ、インバウンドに特化したバスツアー誘客を行っていく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
各種イベントへの参加者数	1,600人	5,240人	327%

ラムサール条約登録10周年となった荒尾干潟では、様々なイベントを開催したことやテラー乗車体験等において多くの来場者・参加者を獲得できたことで目標を達成できた。また、農水産物の地産地消のグルメフェアにおいても、約3,000人の集客ができた。

2 本市への移住の推進

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
二地域居住や住み替えの支援に関する各事務事業を通じた移住者数	22人	93人	422%

本市に新たに転入し3年以上の定住意思がある人を対象に、15万円を支給する転入促進事業において、広報あらおへの掲載や住宅フェアでの周知が成果につながり、目標を達成することができた。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
移住促進に向けた関係深化に関する各事務事業を通じた移住者数	6人	4人	66%

新型コロナウイルス対策の緩和に伴い、全国的に活動が活発になり移住検討者のお試し暮らし体験住宅利用や相談が増加したものの、移住検討者のニーズの不一致等が要因で実際の移住にはつながらなかったと考えられ、目標は達成できなかった。今後は、よりきめ細かな相談対応を行い、本市の魅力や強みのPR方法を見直したい。

5. 先進的で持続可能なまちをつくる

【数値目標の達成状況】

指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合 (%)	目標値	—	72.5	74.0	75.5	77.0	78.5	80.0
	実績値	71.8	76.3	73.5	73.1			
	達成率	—	105%	99%	96%			
指標名	年度別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
居住誘導区域内の人口密度 (人/ha)	目標値	—	43.4	43.2	42.9	42.7	42.5	42.3
	実績値	43.1	42.1	41.4	41.0			
	達成率	—	97%	95.8%	95.6%			

【数値目標の考察】

荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合

本市の暮らしに関する満足度は、R3同様70%前半で目標は達成できなかった。暮らしに不満がある理由を年代別にみると、20代までは「観光資源や娯楽に魅力がない」、30代では「子育て環境・支援が充実していない」、40代では「働きやすい環境が整っていない」、50代以降は「交通の便が悪い」が最も高く、年代によってニーズが違ってくる。

今後は、より詳細に市民ニーズを把握し、幅広い政策を展開していくことで、本市での暮らしやすさに繋げていく必要がある。

居住誘導区域内の人口密度

年々微減傾向となっており、今後も市全体における人口減少が避けられない見通しであることから、南新地土地区画整理事業の推進により、都市機能誘導による地域経済の活性化、定住人口の増加を図り、中心拠点の再生を図ることが必要である。

5. 先進的で持続可能なまちをつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

1 暮らしやすいまちの基盤の構築

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
都市機能誘導区域内に立地する高次都市機能の施設数の割合	45.9%	47.5%	103%

R4は、都市機能誘導区域内への市立図書館の移転があり、商業施設についても新たに区域内出店が1件あり、対象施設件数に対する区域内件数が増加したことで目標を達成することができた。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
事業化数の累計（スマートシティ）	4件	2件	50%

各事業の事業化に向けて、交付金を活用した実証実験を重ねているが、実証段階で新たに発生した課題解決に時間を要していることが原因で、目標達成とはならなかった。

今後は、デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）を活用した「先進技術とデジタルを活用した誰もが安心して長生きできるウェルネススマートタウン事業（ヘルスケア部門）」で、年度終了までに実装予定としており、計画に沿って事業化を進めることで目標達成に寄与する見込みである。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
地域団体が主催する事業への参加者数	12,750人	2,200人	17%

R4より徐々に事業が再開されるようになったものの、祭り等の大きなイベントは中止になる地区も多く、参加者の増加にはつながらず、目標は達成できなかった。

今後は各地区とも事業再開が活発化すると予想されるが、コロナ禍において地区活動に疎遠になった市民も多く存在することから、LINE等を利用した地区活動の広報強化に努め、事業再開を支援したい。

1 暮らしやすいまちの基盤の構築

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
60歳以上の市民の公共交通満足度	35%	17.3%	49%

個別の生活実態に合わせた公共交通の利用方法を提案するモビリティマネジメントを実施し、参加者に無料バスお試し乗車券を配付した。また、バス無料の日を年2回実施し公共交通への利用転換を促すなど、公共交通を利用してもらえるよう取り組んだものの、目標は達成できなかった。

本市の高齢者は日常的に自家用車を利用する方が多く、公共交通への利用転換が十分に図れなかったことが要因であると考えられる。

一方で、おもやいタクシー等の利用者の満足度は高いため、今後は免許返納対策等も含め、自家用車がなくても安心して移動できる環境を構築する必要がある。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
美しい街のイメージ	62%	57.1%	92%

地域の協力により花植えや草取り等を行ってきたものの、常に綺麗な状態を維持することは難しく、また、個人の敷地や空家等から道路にはみ出している雑草などが影響し、景観に関する良いイメージを持ってもらうことができなかったと考えられ、目標達成とはならなかった。

市外から訪れる人の第一印象や市民が暮らしていく上で、景観に関する印象は重要であるため、十分な管理を行っていくことが必要である。

5. 先進的で持続可能なまちをつくる

【重要業績評価指標(KPI)の達成状況】

2 持続可能な循環型社会の形成

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
荒尾市地球温暖化対策第5期実行計画に定める温室効果ガス排出量	7,938 t	7,939 t (R3)	99.9%

R2策定の実行計画により、指標の算出方法に変更があったため目標値を変更する必要があるが、目標はほぼ達成することができたと言える。

本市の排出割合が高い運輸部門の取組を推進するため、運輸部門協議会を設置しており、今後具体的な取組を検討していく。また、個人、事業者等に太陽光発電や蓄電池等の設置補助を行い、再エネ設備の導入を推進することで温室効果ガス排出量を削減していく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
家庭から排出されるごみ排出量	503g/人・日	577g/人・日	87%

リサイクル推進事業やコンポスト等購入補助事業に取り組んだところであるが、リサイクル推進事業において、可燃ごみの中に混入しているリサイクル品が9.7%と目標の8%を超えていたため、達成できなかったと考えられる。

今後は、季節ごとの可燃ごみの中のリサイクル品の割合を調査分析し、更なるごみ減量化に向け、出前講座などを利用して市民に対する正しいごみ出しの啓発を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
荒尾干潟に親しみを持つ市民の割合	57%	49.4%	86%

荒尾干潟の啓発事業として、テラー乗車体験やサンセットカフェ&コンサート等を開催し、多くの人が干潟を訪れたものの、市外からの来訪者が比較的多かったことが要因で、目標達成とはならなかった。しかしながら、荒尾干潟に対する親しみやすさを向上させるには、啓発事業や湿地センター学習事業で実施している小中学生や親子を対象とするワークショップや体験学習は、長期的に見て効果があると考えられることから、今後も継続していきつつ、地域住民を中心とした清掃活動や不法投棄の巡視を行い、干潟の保全活動を行っていく。

3 災害等に強いまちづくり

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
安心だと思える市民の割合	80%	75.8%	95%

R4年度までに約7割の地区防災計画を策定し、防災情報伝達のための防災アプリの登録の呼びかけ、みまもりカメラの設置や防犯灯のLED化等を進めてきたものの、わずかに達成できなかった要因として、街灯が少ない場所もあることや、令和2年7月豪雨もあり近年の台風や豪雨による被害などによる不安からの結果ではないかと考えられる。

今後、さらなるLED防犯灯の設置促進や、自主防災組織及び防災士との連携による地域防災力の向上などを通して、安心だと思ってもらえる市民を増やしていく。

重要業績評価指標（KPI）	R4目標	R4実績	達成率
整備進捗率	70%	78%	111%

R4.10月に荒尾長洲線野原バイパスの供用が開始されたことなどにより、目標を達成することができた。また、有明海沿岸道路「荒尾道路」については、R5国土交通省道路予算において新規事業化され、本市においては利便性の向上や観光地へのアクセス強化など、大きな効果が期待される。

引き続き、他の事業においても積極的な要望活動等を行ってきたい。

数値目標・重要業績評価指標(KPI)の達成状況一覧

重点戦略 「あらお未来プロジェクト」	基本施策	KPI数	達成状況				
			◎ (100%超)	○ (80~99%)	△ (60~79%)	× (60%未満)	—
1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる	(1)若い世代の結婚希望の実現	2	2				
	(2)妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	2	1		1		
	(3)子育てしやすい環境づくり	3	2				1
	(4)魅力ある教育環境の実現	3	1				2
2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる	(1)健康長寿社会の実現	3	1	1		1	
	(2)地域共生社会の実現	4	2	1		1	
	(3)生涯学習の推進	3	1	2			
3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる	(1)安定した雇用の創出と就職支援	4	2	1		1	
	(2)生産性向上や地域経済循環による所得の向上	3	1	1			1
4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる	(1)あらおファンの拡大	4	1	2		1	
	(2)本市への移住の促進	2	1		1		
5. 先進的で持続可能なまちをつくる	(1)暮らしやすいまちの基盤の構築	5	1	1		3	
	(2)持続可能な循環型社会の形成	3		3			
	(3)災害等に強いまちづくり	2	1	1			
全 体		43	17	13	2	7	4